



宝塚大劇場の前をゆく阪急電鉄の車両。

連載 第3回

# 民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか



## 参詣路を走った 「ミニミズ電車」が民営 鉄道の鏡となるまで

東京生まれのせいかもしれないが、阪急宝塚線というと民営鉄道の中でも高級感ある阪急のブランドイメージに宝塚歌劇の華やかさが相まって、ちょっとファンタジックな印象があった。しかし、鉄道と社寺の関係を調べるようになって、少々見方が変わった。

宝塚線を利用している方はご存じだろうが、この線には服部天神・中山観音・売布神社・清荒神（きよあらし）と社寺の名がついた駅が多い。これは能勢妙見宮や箕面弁財天へ向かう参詣の道に沿って鉄路が敷かれたからだ。

宝塚本線および箕面線は阪急電鉄の前身・箕面有馬電気軌道によって、明治43（1910）年に開業した。箕面有馬電気軌道は大阪と有馬温泉をつなぐことをうたっていたが、社名に「箕面」が入っていることからわかるように、参詣者の輸送も強く意識されていたと思われる（有馬温泉延伸は難工事などのため実現しなかった）。

沿線の服部天神宮の由緒書きにもこう書かれている。「箕面有馬電気軌道は股賑（ムネシ）を極めた服部天神前まで、態々（ツツミ）三国から電車を迂回（ウヅル）して駅を設け、駅名を『服部天神駅』と名付けた程でした」

「迂回」が事実かはわからないが、服部天神駅のホームには服部天神宮の御神木が今

# 大阪府・兵庫県 阪急電鉄

宝塚本線・箕面線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA



上/有馬温泉は大己貴命(大國主神)と少彦名神が発見したという日本最古の温泉。左/古い町並みや寺社など有馬温泉は町歩きも楽しい。

左/宝塚大劇場。宝塚といえば宝塚歌劇だが、もとは箕面有馬電気軌道の乗客誘致のために開業した宝塚新温泉のアトラクションの一つであった。プールを改装した劇場で少女たちに歌劇を演じさせたのが始まり。  
右/宝塚駅と宝塚大劇場を結ぶ花の道に立つベルサイユのばらの彫像。

服部天神宮



右/服部天神駅上りホームに立つ楠。服部天神宮の御神木だ。下/服部天神宮。菅原道真公の脚気が快癒したことから足の神様として有名。



■宝塚本線・箕面線路線図



箕面山

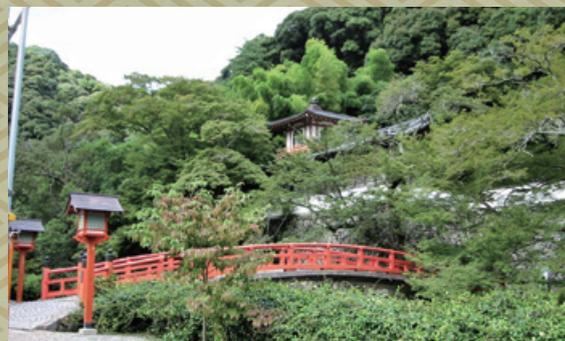


上/大滝や紅葉の美しさから古くから行楽地だった箕面山。下/瀧安寺。箕面山は7世紀半ばに役行者が修行をしたとされる聖地。弁財天・聖天の霊地としても知られる。

阪急電鉄株式会社

Hankyu Corporation

開業 箕面有馬電気軌道株式会社/明治43(1910)年  
宝塚本線 大阪梅田-宝塚(24.5km)  
箕面線 石橋阪大前-箕面(4.0km)  
<https://www.hankyu.co.jp/>



も堂々と立っている。  
しかし、宝塚線に関しては、もう一つの起源のことを言わねばならない。それは阪鶴鉄道のことである。  
阪鶴鉄道は大阪と舞鶴を結ぶ路線を建設することを目的として設立した会社であったが、官鉄や競合他社との関係から敷設が許されたのは神崎(現・JR尼崎)ー福知山であった。しかし、それも明治40(1907)年に国有化された。現在のJR福知山線(JR宝塚線)の前身である。  
この阪鶴鉄道は支線として大阪ー池田間の路線を計画しており、敷設免許も受けていた。箕面有馬電気軌道はこの計画を実質的に受け継ぐ形で建設されたのである。  
開業当時の沿線は田畑が広がって住宅は少なかった。「ミミズ電車」と揶揄されたが、専務で事実上の経営者であった小林一三は日本最大級の動物園や運動場といった施設を沿線に造ったり、住宅地を開発して月賦で販売するなどさまざまな事業を興して乗客を増やしていった。宝塚歌劇はその中でもっとも成功したものの一つだ。  
小林のこうした経営方針は民営鉄道の模範となり、これによって各地の郊外が開発されていった。  
大正7(1918)年に社名を阪神急行電鉄と変え、この時から「阪急」の呼称が使われるようになった。なお、「電鉄」とつけたのは、軌道線であったので「電気鉄道」と名乗れなかったことによる。この用語も民営鉄道に広まり、その近代化に一役買った。

しぶやのぶひろ

1960年、早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究家。『一生に一度は参拝したい全国のお寺めぐり』『聖地鉄道めぐり』(以上、G.B.),『眠れなくなるほど面白い 図解 仏教』(日本文芸社),『諸国神社 一宮・二宮・三宮』(山川出版社)ほか著書多数。